

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2019 年 8 月 29 日作成 第 1 版

研究課題名	熱傷患者における抗菌薬適正使用への薬剤師関与と有用性の評価
研究の対象	2013 年 10 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日までに、横浜市立大学附属病院高度救命救急センター EICU にやけどで搬送され、熱傷範囲Ⅱ度 15% またはⅢ度 2% 以上の中等度以上と診断された患者さんのうち、入室中に感染症を発症し、入院時 18 歳以上の方
研究目的 ・方法	薬剤耐性菌（AMR）による死亡者数の増加が危惧されています。その対策として医師、薬剤師主導の抗菌薬適正使用の推進が有効であるということが分かっています。しかしながら熱傷のような重症度の高い症例での有効性はまだ分かっていません。そこで抗菌薬適正使用について薬剤師介入による影響を電子カルテから過去にさかのぼって検討し、安全性、抗菌薬使用量、耐性菌出現率の評価を行います。横浜市立大学の定める利益相反に関する開示事項はありません。
研究期間	西暦 2020 年 1 月 6 日 ~ 西暦 2023 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報 の種類	以下情報を診療録から収集します。 1) 患者基本情報：年齢、性別、診断名、身長、体重、既往歴、熱傷面積、熱傷深度、気道熱傷の有無、熱傷の種類 2) 血液検査：入院時・抗菌薬開始時点での白血球、ヘモグロビン、血小板、ALT、AST、総 Bil、直接 Bil、間接 BIL、血清クレアチニン、eGFR、Na、K、Mg、P、CRP、PCT 3) 微生物データ：血液、痰、尿、組織、便からの培養結果、薬剤感受性、 4) バイタル：入院時・抗菌薬開始時点での血圧、脈拍、体温、PaO ₂ 、FiO ₂ 、GCS、尿量 5) 治療内容：投与薬剤（量、投与日数）、外科的処置回数、透析の有無 6) 治療効果 7) 有害事象：副作用の発現 8) 予後：在院日数、ICU 在室日数、28 日死亡率 なお、データ解析終了後は撤回できない場合があります。

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 薬剤部（研究責任者）小濱 弥真斗

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-253-5343